

第3節 教育研究

- (3) 中学校3年について5教科平均でみると、
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 36年度 | 46.5 | 38年度 | 47.5 |
| 37年度 | 47.1 | 39年度 | 47.8 |

と2・3年とも確実に向上していることがわかる。

- (4) 総体的には、36年度は小・中学校とも、偏差値で46点台であったものが、年度を追って向上のあとが見られ、39年度においては偏差値で小学校48点台、中学校47点台と伸びていることは注目してよいと思われる。

なお詳細については、報告書として紀要50「全国小・中学校学力調査報告書」を発刊して、それぞれの立場での利用活用供した。

内容としては、次のとおりである。

I 調査の概要

- A 調査の目的
- B 調査の内容

II 調査の結果

- A 平均点、標準偏差
- B 本県成績の全国的位置
- C 調査問題のねらいと領域・分野別の正答率
- D 児童生徒の得点分布
- E 学校間の学力のひらき
- F 地域類型別にみた学力

III 調査結果の利用方法

IV 小学校全国学力調査結果の考察

- A 調査結果の概観
- B 国語
- C 算数

V 中学校全国学力調査結果の考察

- A 調査結果の概観
- B 国語
- C 社会
- D 数学
- E 理科
- F 英語

VI 統計表

- 第1表 問題別小問正答率
- 第2表 児童生徒の得点分布
- 第3表 学校平均点の分布
- 第4表 換算表(県で標準化した学力偏差値)

特に本年度は、統計的資料と指導上の問題点を併せて報告書とし、利用の便を図った。

昭和39年度に研究係として、研究または実施した事業とその内容は次のとおりである。

(1) 研究

- ① 望ましい学習指導法の組織化
- ② 複式学級における学習指導法の研究
—プログラムを用いた学習指導法の研究—
- ③ 中学校における学力の学校差の要因の研究
- ④ 診断的性格を帯びた福島県標準学力検査問題の作成
- ⑤ 全国学力調査結果の分析研究
- ⑥ 全国教育研究所連盟の共同研究

(2) 研修

- ① 研究結果の普及
- ② 長期研修
- ③ 地域研修指導者養成講座

1 研究結果の普及

研究結果については、実験学校の授業参観日の設定、出張所の指導主事への研究中間報告会、研究紀要の刊行などをとおし、その内容の理解をはかり、指導の資料として活用されるよう、その普及にも配慮した。

望ましい学習指導法の組織化の研究について、その内容を理解し、指導のための資料として活用することを目的として、出張所の指導主事への中間報告会を行なった。

(1) 期日

昭和39年10月21・22日の両日

(2) 日程および内容

- ① 第1日 研究内容の報告、研究討議
 - ・望ましい学習指導法の組織化の研究概要
 - ・研究討議
 - ・望ましい学習指導法の組織化の原理とまとめ
- ② 第2日 授業参観、研究討議
 - ・実験学校 福島市立平野小学校
 - ・国語、社会、算数、理科の分科会にて研究討議

(3) 会場

- ・福島市公民館
- ・福島市立平野小学校

(4) 参加者

本庁ならびに出張所の指導主事